

平成27年9月29日

観光戦略課
電話 0742-34-4739
内線 2910

平成26年奈良市観光入込客数について

1 観光客数の概要

平成26年中に奈良市を訪れた観光客は、14,143千人で前年の13,795千人に比べ、348千人（2.52%）の増となりました。

2 種別前年との比較

平成26年の観光客数は、外国人観光客数が44.83%と前年に引き続き大きく増加し、修学旅行生数も2.63%の増加となりました。また、一般観光客についても、宿泊客が7.67%の増、日帰客はほぼ横ばいの0.31%の増となりました。結果、全体的に増加傾向となり、観光客総数では2.52%の増加となりました。

種別		H25年観光 入込客数（千人）	H26年観光 入込客数（千人）	増減 （千人）	増減率 （%）
一般	宿泊	1,238	1,333	95	7.67
	日帰	11,246	11,281	35	0.31
	計	12,484	12,614	130	1.04
修学旅行	宿泊	103	117	14	13.59
	日帰	773	782	9	1.16
	計	876	899	23	2.63
外国人	宿泊	75	111	36	48.00
	日帰	360	519	159	44.17
	計	435	630	195	44.83
合計	宿泊	1,416	1,561	145	10.24
	日帰	12,379	12,582	203	1.64
	計	13,795	14,143	348	2.52

3 主な増減要因

(1) 平成26年の概況

内閣府「日本経済 2014-2015」によると、消費税率引上げ前後の景気動向を振り返るとともに、デフレ脱却に向けた進捗状況の分析をすることで、平成26年の景気は、雇用・所得環境の改善に支えられ、緩やかな回復基調を継続しているものの、消費税率の引き上げや輸入物価の上昇等による物価上昇の中で個人消費に弱さがみられると指摘されています。また、我が国産業の稼ぐ力を内外で高めていくための課題に焦点を当て、観光や知的財産といった強みを活かしつつ、サービスでも稼ぐ力を高めていくことなどの重要性が指摘されています。このような消費傾向は、観光客の消費動向に対しても影響を与えたと考えられます。

また、平成26年は、日本の観光資源が世界的に高く評価された一年でもあり、6月に「富岡製糸場と絹産業遺産群」（群馬県）が我が国の近代産業遺産として初めてユネスコの世界文化遺産に、さらに、11月には「和紙：日本の手漉（てすき）和紙技術」が無形文化遺産に登録されました。

一方、奈良市においては、2月に世界遺産を含む社寺や「ならまち」にあるお茶室を会場として、三千家などの各茶道流派が一堂に会する「珠光茶会」の第一回目が開催され、約6千人の来場者を迎え、新たな冬の一大イベントが開始されました。

また、11月には「奈良観光統計ウィーク」と称して、「第13回観光統計グローバルフォーラム」（観光庁、OECD（経済協力開発機構）、EU統計局主催）及び「UNWTO観光統計スペシャルワークショップ」（観光庁、UNWTO（国連世界観光機関）主催）が奈良市において開催され、47か国・約200人の方が来場されました。特に、観光統計グローバルフォーラムは初めての欧州以外での開催となり、日本のOECD加盟50周年の節目の年の関連事業が奈良の地で開催されました。

また、平成28年文化庁「東アジア文化都市」第3回国内候補地に奈良市が決定されるなど、奈良市が国内外から注目を集める態勢が整いつつある年でもあります。

(2) 奈良市への観光客数

平成25年に比した平成26年の観光客数を利用交通機関別に見ると、軌道（JR及び近鉄）が対前年比165,000人（1.76%）増、モーター（観光駐車場等）が対前年比183,700人（4.16%）増となっています。

軌道のうち主な駅であるJR奈良駅と近鉄奈良駅を抽出して見ると、どちらも年間の対前年比増加率は、それぞれ1.71%、2.23%となっています。

モーターの詳細を見ると、県営駐車場（登大路・大仏前・高畑）の増加が大きく寄与しており、高畑の普通車（11.82%増）・バス（16.93%増）、大仏前のバス（9.83%増）、登大路の普通車（7.42%増）の対前年比増加率（駐車台数ベース）が大きくなっています。

(単位:人)

	軌道(A)			モーター(B)			合計(A+B)		
	H25	H26	増減率	H25	H26	増減率	H25	H26	増減率
1月	758,900	774,300	2.03%	257,100	249,400	-2.99%	1,016,000	1,023,700	0.76%
2月	645,900	674,700	4.46%	213,800	210,100	-1.73%	859,700	884,800	2.92%
3月	845,900	848,000	0.25%	465,900	457,100	-1.89%	1,311,800	1,305,100	-0.51%
4月	831,000	789,700	-4.97%	489,200	485,400	-0.78%	1,320,200	1,275,100	-3.42%
5月	884,700	856,500	-3.19%	654,700	699,500	6.84%	1,539,400	1,556,000	1.08%
6月	766,400	745,000	-2.79%	440,900	449,800	2.02%	1,207,300	1,194,800	-1.04%
7月	678,600	688,700	1.49%	197,600	224,700	13.71%	876,200	913,400	4.25%
8月	762,500	840,000	10.16%	201,000	245,500	22.14%	963,500	1,085,500	12.66%
9月	715,000	751,200	5.06%	293,000	367,800	25.53%	1,008,000	1,119,000	11.01%
10月	776,900	809,700	4.22%	469,600	477,000	1.58%	1,246,500	1,286,700	3.23%
11月	928,800	982,800	5.81%	467,100	464,900	-0.47%	1,395,900	1,447,700	3.71%
12月	788,500	787,500	-0.13%	262,100	264,500	0.92%	1,050,600	1,052,000	0.13%
計	9,383,100	9,548,100	1.76%	4,412,000	4,595,700	4.16%	13,795,100	14,143,800	2.52%

【参考:軌道よりJR奈良駅及び近鉄奈良駅部分を抽出して比較】(単位:人)

	JR奈良駅			近鉄奈良駅		
	H25	H26	増減率	H25	H26	増減率
1月	203,400	205,800	1.18%	436,000	443,400	1.70%
2月	171,600	178,700	4.14%	367,700	385,100	4.73%
3月	223,700	223,400	-0.13%	479,500	481,200	0.35%
4月	223,000	211,000	-5.38%	478,000	454,600	-4.90%
5月	238,700	228,900	-4.11%	511,500	493,000	-3.62%
6月	204,500	196,900	-3.72%	438,300	424,300	-3.19%
7月	178,700	180,800	1.18%	382,900	389,400	1.70%
8月	203,900	226,300	10.99%	437,100	487,400	11.51%
9月	190,100	200,100	5.26%	407,500	431,100	5.79%
10月	207,700	218,500	5.20%	445,200	470,800	5.75%
11月	252,300	271,000	7.41%	540,800	583,900	7.97%
12月	209,700	208,700	-0.48%	449,500	449,500	0.00%
計	2,507,300	2,550,100	1.71%	5,374,000	5,493,700	2.23%

※JR及び近鉄の入込客数は推計

※「軌道」は、JR奈良駅、近鉄奈良駅・大和西大寺駅・西ノ京駅の乗客数から算出

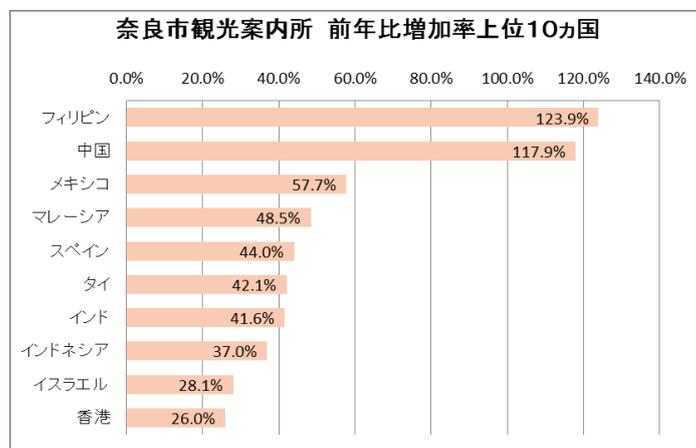
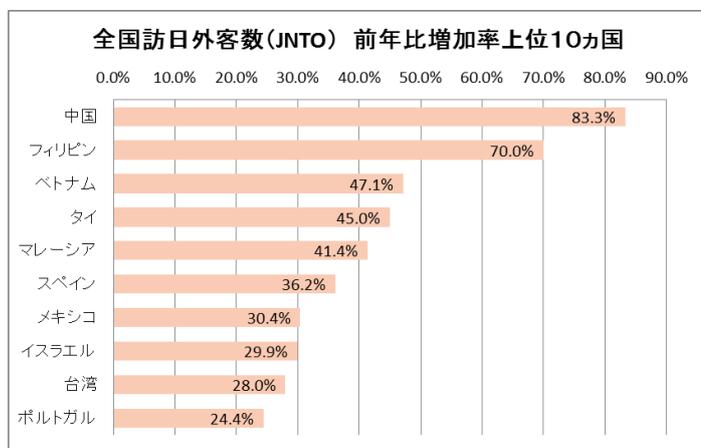
H25～26観光駐車場利用状況

	普通車		バス	
	大仏前	高畑	登大路	高畑
H25→26	-14.08%	11.82%	7.42%	9.83%
H26	31,795	29,354	91,521	48,728
H25	37,005	26,250	85,197	44,366

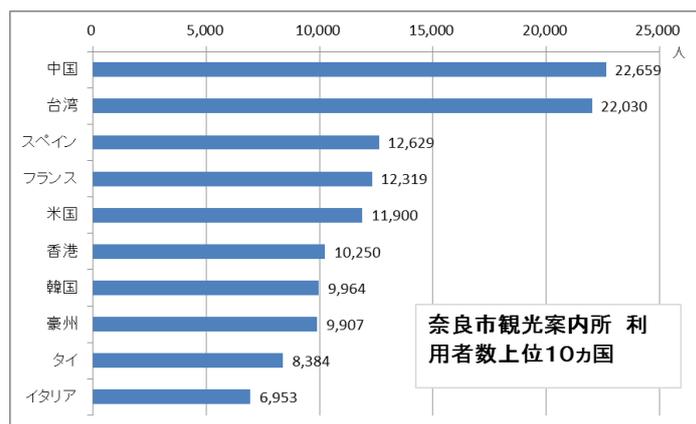
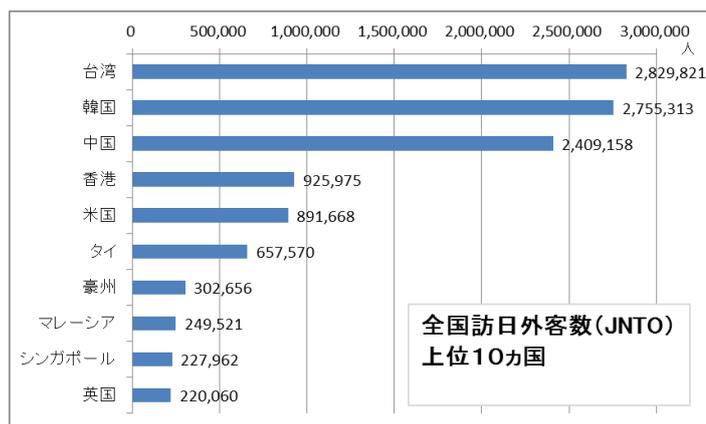
※各県営駐車場の普通車・バスの数値を抽出

(3) 外国人観光客数

外国人観光客については、J N T O（日本政府観光局）の発表によると、全国的に平成25年の1,036万人から平成26年は1,341万人と29.4%増加しており、ビザの大幅緩和（インドの数次ビザ発行や、インドネシア・フィリピン・ベトナムの数次ビザ発給要件の大幅緩和等）や、消費税免税制度拡充（平成26年10月1日から従来免税販売の対象となっていなかった消耗品（食料品、飲料品、薬品類、化粧品類、その他消耗品）を含めた、全ての品目が消費税免税の対象となった）のほか、春秋航空やタイ・エアアジアXなど関西国際空港に発着する格安航空会社（L C C）等の新規就航・増便、円安進行による訪日旅行の割安感の浸透などが要因と考えられます。



(観光案内所利用者数1,000人以上の国・地域のみ集計)



J N T Oが発表する全国の訪日外客数について、国籍別に詳細を見ると、東アジア・東南アジア諸国からの旅行者の増加が前年に引き続き目立っており、前年比増加率の上位10カ国に中国（1位）・フィリピン（2位）・ベトナム（3位）・タイ（4位）・マレーシア（5位）・台湾（9位）の6カ国がランクインしています。

奈良市の観光案内所の国籍別外国人観光客案内内訳について、利用者数1,000人以上の国・地域から前年比増加率の上位10か国を集計して見ると、東アジア・東南アジア諸国からは、フィリピン(1位)・中国(2位)・マレーシア(4位)・タイ(6位)・インドネシア(8位)・香港(10位)の6か国がランクインしており、全国的な流れを受けて、奈良市でも東アジア・東南アジア諸国からの旅行者の増加が見られ、特にフィリピン・中国に関しては、倍以上の伸びとなっています。

また、メキシコ(3位/57.7%増)・スペイン(5位/44.0%増)などの増加率も高くなっています。(ベトナムは、案内所利用者数が1,000人未満(平成26年で405人)のため、上記ランキングには表示されていないが、前年比増加率だけを見ると、奈良市においても38.2%の伸びを示しています。)

奈良市観光案内所における増加率の上位3か国の変動要因は、次のとおり。

フィリピン：全国2位／奈良市1位

(単位：人)

	H22	H23	H24	H25	H26
フィリピン→日本	77,377	63,099	85,037	108,351	184,204
増減(前年比)		-18.5%	34.8%	27.4%	70.0%
フィリピン→奈良市	786	457	736	1,178	2,638
増減(前年比)		-41.9%	61.1%	60.1%	123.9%

※奈良市への人数は、観光案内所利用者数を示す

- 平成25年7月からの短期滞在数次ビザの発給開始、平成26年9月からの数次ビザ発給要件の大幅緩和(有効期間を最長5年に延長等)、平成26年11月からの指定旅行会社のパッケージツアーを利用する一次ビザの手続き簡素化
- 羽田空港の国際線発着枠の拡大に伴う増便や新規就航
- 関空への就航便の主な変動
 - 増便：
 - I. セブ・パシフィック航空(マニラ/週3→7便/H25年12月～)
 - II. フィリピン航空(マニラ/週7→14便/H26年3月～)

中国：全国1位／奈良市2位

※H22～H24の奈良市への人数は中国・香港が合算になっているため除外

(単位：人)

	H22	H23	H24	H25	H26
中国→日本	1,412,875	1,043,246	1,425,100	1,314,437	2,409,158
増減(前年比)		-26.2%	36.6%	-7.8%	83.3%
中国→奈良市	-	-	-	10,397	22,659
増減(前年比)		-	-	-	117.9%

※奈良市への人数は、観光案内所利用者数を示す

- 平成24～25年に伸び悩んだ訪日旅行需要の反動
- 全国的な年間を通じた大型クルーズ船の多数寄港(上海、天津、廈門、青島)

発のクルーズ船)

➤ 関空への就航便の主な変動

□ 新規就航：

- I. 上海吉祥航空（上海／週 7 便／H26 年 4 月～）
- II. 春秋航空（上海／週 10 便／H26 年 3&7 月～）
- III. 春秋航空（天津（週 4 便）・重慶（週 3 便）／H26 年 7 月～）
- IV. 中国東方航空（成都／週 4 便／H26 年 10 月～）

□ 増便：

- I. 中国東方航空（上海／週 21→28 便／H26 年 4 月～）
- II. 中国東方航空（青島／週 4→7 便）／H26 年 10 月～）

メキシコ：全国 7 位／奈良市 3 位

(単位：人)

	H22	H23	H24	H25	H26
メキシコ→日本	19,248	13,080	18,502	23,338	30,436
増減(前年比)		-32.0%	41.5%	26.1%	30.4%
メキシコ→奈良市	764	495	868	943	1,487
増減(前年比)		-35.2%	75.4%	8.6%	57.7%

※奈良市への人数は、観光案内所利用者数を示す

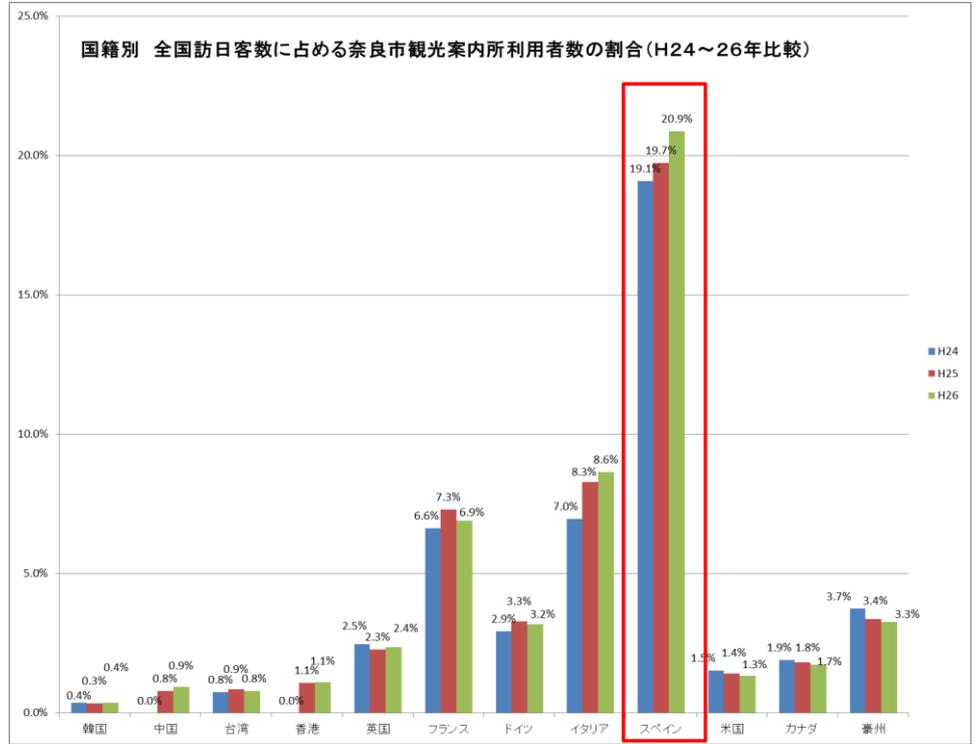
- メキシコには近年、自動車会社などを中心に多くの日系企業が進出しており、観光に加えて業務渡航の需要も大きく拡大
- アエロメヒコ航空は平成 26 年 4 月に、成田～メキシコシティ線を週 4 便に増便
- 平成 26 年 9 月にはメキシコシティ～成田便の経由地をティファナからモンテレイに変更して利便性向上
(アエロメヒコ航空は、近年モンテレイ国際空港からのネットワークを強化し、重要なハブと位置付けている)

インドネシアの増加率も高く（8 位／37.0%増）、この動きを加速させるため、平成 26 年度からインドネシアへのプロモーションを開始しています。平成 27 年 2 月には、航空会社 1 社・旅行会社 6 社・TV 番組制作会社 1 社にセールスコールを行い、奈良市を訪問地に組み込んだ具体的な商品造成に向けた取り組みを進めています。既に、訪問した旅行会社 6 社のうち 1 社からは具体的な旅行商品造成が成され、その後、インドネシア人の旅行者、約 100 名が奈良を訪問しています。

また、観光案内所利用者数上位 10 か国を見ると、中国（22,659 人）・台湾（22,030 人）に続き、スペイン（12,629 人）がランクインしています。

特に、スペインについては、平成26年に全国で60,542人來ているうち、奈良市の観光案内所で確認できるだけでも、12,629人が來訪しており、約20.9%、実に5人に1人が奈良市に來ている計算となっています。これは、平成25～26年にかけて実施された「日本・スペイン交流400周年」により生じた

日本ブームや、JNTOのスペイン語サイトの開設（平成25年4月～）、近年のスペイン經濟の回復基調に円安傾向が加わり、日本への旅行に注目が集まったことなどの外部環境的要因に加え、特に歴史的・伝統的なものへ強い関心を持つスペイン人旅行者が奈良市や京都市などを訪問していることが考えられます。



す。また、近年、スペインの旅番組で日本（奈良市・京都市なども含む）が取り上げられることが度々ある、など露出が増加したことも要因の一つと考えられます。

上記グラフを見ると、スペインほどではありませんが、フランス・イタリアについても、比較的割合が高くなっています。「JNTO訪日外客訪問地調査2010」を見ても、スペイン・フランス・イタリア（特にスペイン）は、同じ欧州圏の英国・ドイツと比較しても、「歴史的・伝統的な景観、旧跡」への訪日前の期待が高い結果が出ており、奈良市をはじめとする関西地域には世界遺産・国宝・重要文化財などが集中していることから、このような関心の持ち方が影響しているとも考えられます。

市場別 訪日前に期待したこと

市場	1位		2位		3位		4位		5位	
韓国	食事	53.1%	温泉	46.0%	ショッピング	40.8%	歴史的・伝統的な景観、旧跡	35.6%	都市の景観・繁華街の賑わい	31.1%
台湾	自然、四季、田園風景	64.4%	食事	62.3%	ショッピング	56.7%	温泉	49.4%	歴史的・伝統的な景観、旧跡	47.6%
中国	自然、四季、田園風景	63.6%	ショッピング	59.1%	温泉	51.3%	食事	45.8%	都市の景観・繁華街の賑わい	39.1%
香港	食事	75.6%	ショッピング	69.2%	自然、四季、田園風景	50.2%	温泉	43.1%	歴史的・伝統的な景観、旧跡	32.7%
英国	食事	79.3%	歴史的・伝統的な景観、旧跡	77.0%	都市の景観・繁華街の賑わい	58.7%	日本人の生活、日本人との交流	55.4%	ショッピング	54.5%
フランス	食事	81.7%	歴史的・伝統的な景観、旧跡	79.8%	日本人の生活、日本人との交流	64.8%	都市の景観・繁華街の賑わい	54.0%	日本の伝統文化の体験・鑑賞	48.4%
ドイツ	食事	84.4%	歴史的・伝統的な景観、旧跡	78.6%	日本人の生活、日本人との交流	55.8%	都市の景観・繁華街の賑わい	42.2%	日本の伝統文化の体験・鑑賞	41.6%
イタリア	歴史的・伝統的な景観、旧跡	80.6%	食事	76.3%	ショッピング	48.4%	日本人の生活、日本人との交流	46.2%	自然、四季、田園風景	46.2%
スペイン	歴史的・伝統的な景観、旧跡	86.2%	食事	77.2%	都市の景観・繁華街の賑わい	70.7%	日本の伝統文化の体験・鑑賞	64.2%	日本人の生活、日本人との交流	63.4%
米国	食事	80.4%	歴史的・伝統的な景観、旧跡	72.4%	日本人の生活、日本人との交流	56.1%	ショッピング	53.4%	日本の伝統文化の体験・鑑賞	47.8%
カナダ	食事	77.9%	歴史的・伝統的な景観、旧跡	77.9%	ショッピング	58.5%	日本人の生活、日本人との交流	54.8%	都市の景観・繁華街の賑わい	47.0%
豪州	食事	71.5%	歴史的・伝統的な景観、旧跡	64.8%	ショッピング	52.4%	日本人の生活、日本人との交流	49.3%	都市の景観・繁華街の賑わい	42.4%

(出典)「JNTO訪日外客訪問地調査2010」より奈良市作成

(4) 修学旅行生数

修学旅行生については、宿泊と日帰りを併せた総数では対前年比2.63%の増加となり、近年は増加傾向が続いています。

【奈良市】平成20～26年の修学旅行生数の推移

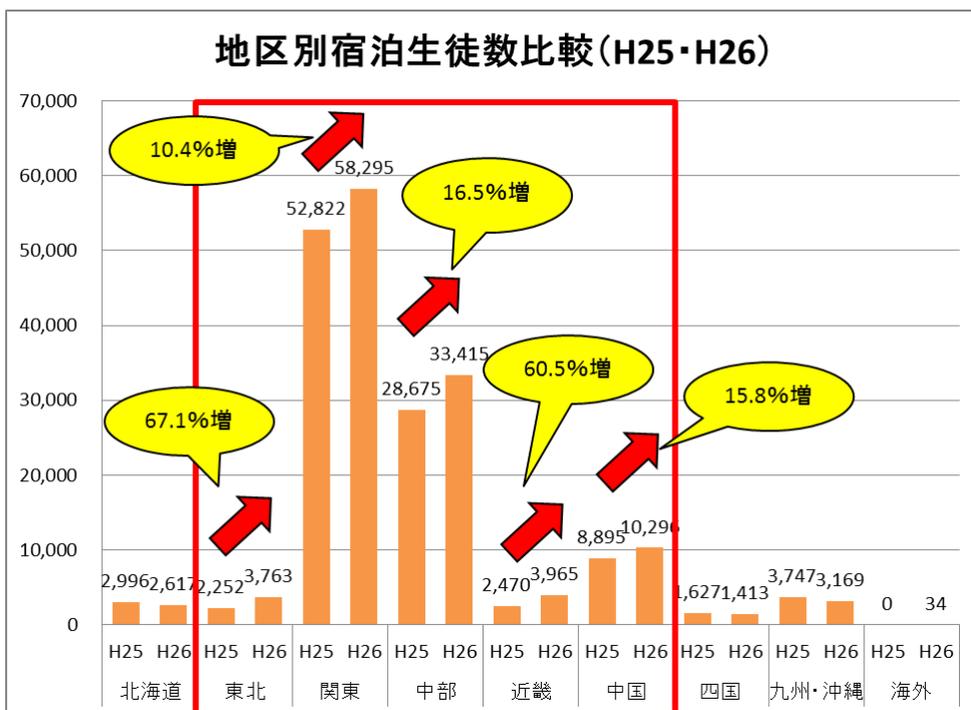
(単位:人)	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	H25→26 伸び率
合計	774,000	782,000	1,026,000	816,000	825,000	876,000	899,000	2.6%

【全国】平成20～26年度の修学旅行全国対象生徒数の推移

(単位:人)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	H25→26 伸び率
合計	3,505,772	3,525,594	3,474,719	3,510,533	3,448,213	3,465,575	3,411,760	-1.6%

(出典)文部科学省「学校基本調査」

地方ブロック別で、平成25年と平成26年の宿泊生徒数を比較すると、東北・関東・中部・近畿・中国と、全般的に対前年比で増加している地方ブロックが多いことがわかります。



次に、都道府県別で宿泊生徒数を見ると、人数ベースでは、首都圏・中京圏の中心である東京都・愛知県が安定的に1位・2位にランクインしています。

また、上記の対前年比で増加傾向にある地方ブロックの詳細を見ると、東北から北関東にかけての県を中心に顕著な伸びが見られます。

(単位:人)

地方ブロック	都道府県	H25	H26	増減率 H25→26
東北	青森	208	596	186.54%
	山形	221	620	180.54%
	宮城	258	770	198.45%
	福島	0	233	皆増
関東	茨城	858	2,330	171.56%
	群馬	231	1,636	608.23%
	山梨	1,615	2,712	67.93%
中部	福井	788	997	26.52%
	愛知	13,242	15,987	20.73%
	岐阜	4,988	6,728	34.88%
近畿	滋賀	396	1,043	163.38%
	京都	454	878	93.39%
	兵庫	507	796	57.00%
中国	鳥取	359	922	156.82%
	島根	75	358	377.33%
	岡山	3,519	4,899	39.22%

東京都を含む関東地区における修学旅行生の増加については、平成18年から継続的に「奈良市東京観光オフィス」による首都圏での教育旅行誘致活動を実施しており、平成26年の修学旅行に影響する平成24年度の活動において、奈良市のメインターゲット層である東京都区内公立中学校のうち200校に対して営業を行い、93校が奈良市に宿泊するなど、一定の成果（46.5%の成約率）を収めていると言えます。

総務省の人口推計によると、平成26年4月1日現在の15歳未満人口は、昭和57年から33年連続減少の過去最低の数字となっており、その点を考慮すると、奈良市の現在の教育旅行誘致活動には、一定の効果が見込まれます。

そこで、1300年の歴史を有し、世界遺産など歴史文化遺産の宝庫である奈良市の魅力を最大限に活かす方策を考えるとともに、従来の首都圏への誘致活動も継続しつつ、今後、その他の地区への誘致活動の強化も検討していきたいと考えています。

4 奈良市内の観光消費額

観光庁が「観光入込客統計に関する共通基準」に基づいた都道府県等の入込客に関する調査結果をまとめて公表している「共通基準による観光入込客統計」の平成26年集計分から推計すると、平成26年の奈良県の1人あたり観光消費額は、宿泊客が25,966円、日帰り客が3,871円となります。

上記1人あたり観光消費額（単価）を奈良市の観光入込客数に乗じて、奈良市内の観光消費総額を推計すると、約892億円（宿泊客：約405億円／日帰り客：約487億円）となります。

H26	観光消費額単価 (奈良県)	観光入込客数 (奈良市)	観光消費額 (奈良市)
宿泊客	25,966円	1,561千人	40,532,926千円
日帰り客	3,871円	12,582千人	48,704,922千円
合計			89,237,848千円

(参考)外国人のみを抽出して奈良市の観光消費額を推計

H26	観光消費額単価 (奈良県)	観光入込客数 (奈良市)	観光消費額 (奈良市)
外国人宿泊客	68,245円	111千人	7,575,195千円
外国人日帰り客	9,613円	519千人	4,989,147千円
合計			12,564,342千円

観光消費額 約892億円（対前年比 約20億円増）